

## 健康でいきいきと暮らせるまち

### 施策

# 生涯を通して健康に暮らせる社会をつくる

## 現状・課題

急速な高齢化に伴い、生活習慣病\*1や、これに起因した寝たきりや認知症などの要介護状態\*2になる人の増加が深刻な社会問題となっています。また、現代社会の様々なストレスが、人々の健康に大きな影響を与えています。

これからは、健康寿命（寝たきりや認知症にならない状態で生活できる期間）を伸ばすため、保健、医療と福祉が連携した自主的な心身両面にわたる健康づくりへの取り組みが求められています。

また、本市でもがん・心臓病・脳卒中による死亡者が増加しています。このため、生涯を通じた生活習慣の改善が大切です。

さらに、スポーツやレクリエーションによる体力づくりに取り組む市民を増やすことにより、心身両面からの健康増進に取り組まします。

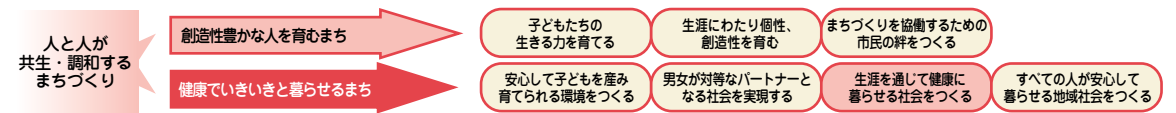
## 施策の方向性

- ・ 保健、医療と福祉の連携による健康寿命の延伸
- ・ 生活習慣病の予防
- ・ 寝たきり・認知症の予防
- ・ スポーツを通じた健康の増進

● 三大死因\*3による死亡者数



●用語説明 \*1 生活習慣病：食事や運動不足、喫煙、ストレスなどの生活習慣が原因で起こったり進行したりする、がんや脳卒中、心臓病、肝臓病、糖尿病、高血圧などの病気の総称。  
 \*2 要介護状態：身体または精神の障害のために、入浴・排せつ・食事等、日常生活での基本的な動作について、6ヶ月にわたり継続して、常時介護を要すると見込まれる状態。  
 \*3 三大死因：がん、脳卒中、心臓病のこと。  
 \*4 医療レセプト：病気等で医者にかかったとき、実際に行った診療内容や個々の診療行為に要した費用額を記入した書類。  
 \*5 地域保健医療情報システム：保健・医療・福祉情報の共有化を図り、その連携を支援することを目的とした、市と医療機関等とのコンピューターネットワークシステム。



## 課題を解決するために

### 基本柱1 自主的な健康づくりを支援する

生涯にわたり健康に暮らすためには、市民一人ひとりが健康に心がけることが重要であることから、健康診査や正しい知識の普及啓発に取り組む。

中 柱	内 容
生活習慣病の予防	◎ 健康診査、健康相談教育及び指導の充実 ◎ 認知症予防の推進
健康づくりの支援	◎ 感染症予防の充実（予防接種・結核予防・環境衛生）◎ 健康づくり事業の充実
医療を支える国民健康保険の適正な運営	◎ 国民健康保険事業の運営 ◎ 医療レセプト*4点検の充実 ◎ 医療給付の充実
救急医療体制の充実	◎ 休日急患センター及び休日急患歯科診療所の運営 ◎ 在宅当番医制、病院群輪番制及び小児救急医療支援事業の運営
保健・医療・福祉サービスの連携	◎ 地域保健医療情報システム*5の運営

指標 22	健康診査受診率	基準値(H17)	36.0%	目標水準(H23)	50%
指標 23	三大死因による死亡者数	基準値(H16)	5.0人/千人	目標水準(H23)	4.5人/千人

### 基本柱2 生涯を通じスポーツに参加できる環境をつくる

健康で過ごすためには基礎的な体力が必要である。スポーツによる体力づくりに取り組みやすいように環境を整える。

中 柱	内 容
多様なスポーツ・レクリエーション活動の場の提供	◎ スポーツ指導者・レクリエーションリーダーの養成 ◎ スポーツ施設の充実 ◎ 学校施設の開放推進
市民スポーツ活動の活性化	◎ スポーツ活動の機会の拡充 ◎ 各種スポーツ団体、生涯スポーツクラブの育成 ◎ 優秀選手支援、競技選手の育成

指標 24	スポーツ施設の利用者数	基準値(H17)	867千人	目標水準(H23)	953千人
指標 25	スポーツ指導者登録者数	基準値(H17)	394人	目標水準(H23)	500人

◎補完指標 ・平均寿命（男性・女性）、国保医療費一人当たり費用額、国保被保険者数  
 ・福井市体育協会加盟競技団体数